

あいち農産物生産流通レポート

令和2年8月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 早生で良食味のナシ新品種「瑞月」(系統名:愛知梨3号)の販売特性 (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス	
・ 小さくてかわいい「知多のペコロス」出荷中 (知多農林水産事務所)	2
・ (株)太田商店「らんパーク」のリニューアルオープンについて (西三河農林水産事務所)	3
◎ 東日本情報	
・ 令和元年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の販売結果及び提言 (東京事務所)	4
◎ 西日本情報	
・ 通販サイト「愛知県WEB物産展(あいちの『食と物産』マルシェ)」がオープンしました! (食育消費流通課)	6
◎ フラワーページ	
・ 愛知県産花きの輸出促進の取組について (園芸農産課)	7
・ 植物園に行ってみよう (東京事務所)	9
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	24

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

早生で良食味のナシ新品种「瑞月」^{ずいげつ}（系統名：愛知梨3号）の販売特性

農業総合試験場

農業総合試験場と国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が共同育成した「瑞月」^{*}の有利販売方法を検討するため、外観及び食味の評価を調査したので紹介します。



「瑞月」

1 主力品種と比較した場合の評価

「幸水」又は「豊水」との比較では、「甘み・シャリシャリ感・みずみずしさ」はいずれも高く評価されました（図1）。一方、「果皮の色・かたち・果肉の色」は市場関係者又は販売者の一部で低く評価されました。その理由として、「幸水」との比較では「果肉の色」はやや黄色に見えること、「豊水」との比較では「果皮の色」は赤みが薄く未熟に見えること、「かたち」はやや縦長であることが指摘されました。しかしながら、消費者はこれら外観に対して否定的な印象を持っていませんでした。

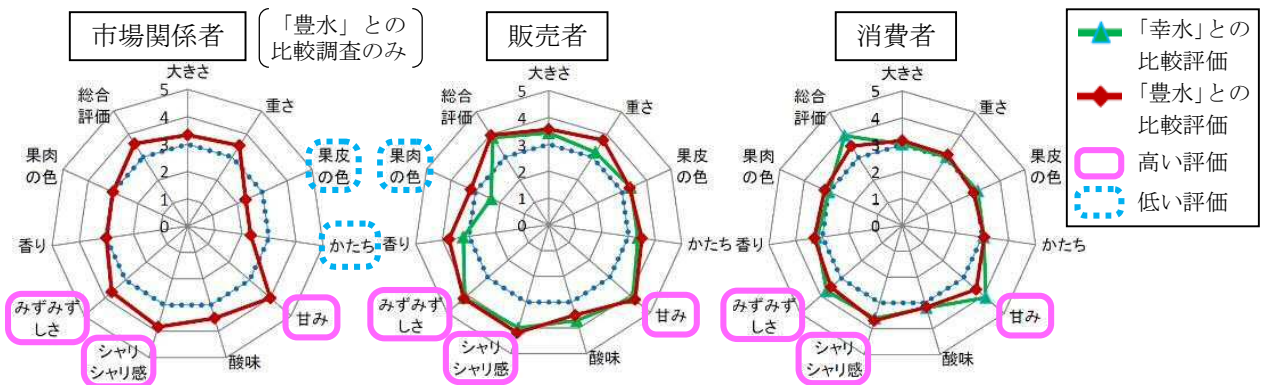


図1 市場関係者・販売者・消費者における「瑞月」の外観・食味評価

（注）5段階評価（5：とても良い、4：良い、3：同等、2：悪い、1：とても悪い）

2 着色段階別の果実を比較した場合の食味評価

果皮の着色段階別（カラーチャート（CC）1、2、3）で収穫した「瑞月」の果実を、着色段階を伏せて相互に比較する方法で、消費者の食味評価を実施しました。その結果、着色が進んだ2と3は、着色が最も進んでいない1と比較した場合に評価が高くなりました（図2）。

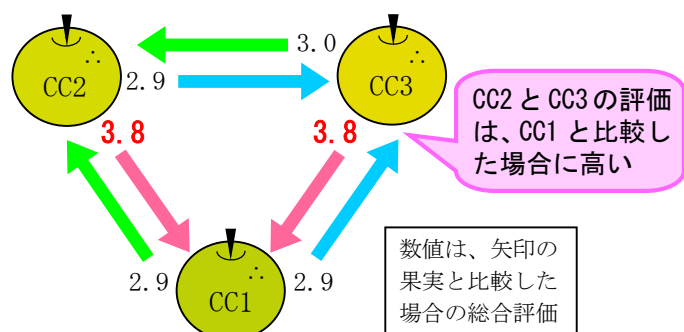


図2 「瑞月」の着色段階別の果実に対する消費者の食味評価（注）5段階評価（図1と同じ）

3 有利販売方法

- ①「幸水」や「豊水」より甘み・シャリシャリ感・みずみずしさが優れることのPR、
- ②「幸水」や「豊水」と異なる外観を呈する品種であることの周知、さらには特徴的な果肉色の積極的なPR、
- ③CC2～3を目標とした適期収穫の徹底、の取組を行うことで、「瑞月」の特性が理解され、信頼性が高まり、有利販売につながると考えられます。

※参考：令和元年10月1日付けで品種登録出願公表、品種特性は「あいち農産物生産流通レポート」令和元年10月号を参照

小さくてかわいい「知多のペコロス」出荷中

知多農林水産事務所

1 ペコロスとは

ペコロスは、一般的な品種のタマネギを間隔を狭めて植えることで小さく育てたもので、直径3～4cm程度の甘みが強い小形のタマネギです。カレーやシチューなどの煮込み料理のほか、蒸したり、焼いたりして丸ごと食べられる野菜です。

2 産地の概要

ペコロスは知多市の特産品で、栽培の歴史は大正時代に始まり、一時は全国の生産量の80%を占めました。現在は日長（ひなが）地区で生産され、概ね4月上旬から8月中旬まで京浜市場、中京市場を中心に出荷しています。東京都中央卸売市場の平成31年1月から12月までの入荷実績では北海道に次ぐ第2位となっており、知多産の出荷時期においては全入荷量の約50%を占めています。

栽培はほとんどが手作業で、苗を密にして定植し、収穫、出荷するまで非常に多くの労力がかかりますが、生産者は、小さなペコロスに愛情を込めて、1球ずつ大切に出荷しています。



ペコロス

3 「ちたペコロス街道」に認定

知多市では、ペコロスの知名度向上と地域の飲食店の活性化を目的として、知多市商工会の主催で市内の飲食店が腕を振るった自慢のペコロス料理を提供する「知多ペコロスフェア」に取り組んでおり、令和元年度には13の飲食店の参加により実施されました。

こうした取組に対して、県は令和元年度に「ちたペコロス街道」※として認定し、PRを行っています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、残念ながらフェアは中止となりましたが、小さくても抜群においしい「知多ペコロス」が、皆様の食卓で楽しんでもらえるのを待っています。



ペコロスの出荷



収穫の様子

※「食と花の街道認定事業」

平成28年度から、県産農林水産物等を活用し、食や花をテーマとして地域の活性化や観光振興に取り組む地域に対して「食と花の街道」として認定し、地域の魅力を広く情報発信。

(株) 太田商店「らんパーク」のリニューアルオープンについて

西三河農林水産事務所

飼料や鶏卵を販売する(株)太田商店(岡崎市)は従前から「岡崎おうはん」のブランド化に取り組んでいます。その太田商店が手掛けるレストラン・直売所「らんパーク」がリニューアルオープンしたのでご紹介します。

1 岡崎おうはんブランド化の取り組み

岡崎おうはんは(独)家畜改良センター岡崎牧場が開発した肉も卵もおいしい純国産の鶏です。岡崎市では貴重な地域資源である岡崎おうはんの魅力や価値を広く情報発信し、地域経済を活性化するために「岡崎おうはんブランド推進委員会」を本年度に設立しました。太田商店が中心となって活動する「岡崎おうはん振興協議会」も構成員となって活動しています。



らんパーク

2 卵のテーマパーク「らんパーク」のリニューアルオープン

らんパークはレストランと直売所が併設された卵のテーマパークです。昨年移転したG Pセンター跡地に従来から人気の施設を拡大しました。レストランでは席数が増えテイクアウトもできるようになり、直売所では地元の企業とコラボしたおうはんの新しい製品を販売するなど、以前より充実したものになりました。施設内には「インスタ」を意識した撮影スポットが整備され、山羊やひよこも触れ合える家族で楽しめる施設になっています。コロナウイルスの影響で以前よりも来客数は減りましたが、ユーチューバーなどが宣伝してくれることもあり、徐々に戻りつつあります。レストランは2時間待ち、休日などは開店前から並ぶこともあるそうです。



人気メニューの卵かけごはんも進化系TGKにリニューアル

今後も、太田商店では岡崎おうはんを使った新商品の開発販売等「らんパーク」を岡崎おうはんブランドの発信拠点としての機能を強化していきます。

令和元年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の販売結果及び提言

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

首都圏の青果卸売会社 30 社及び J A あいち経済連、愛知県で構成される「京浜市場愛知県野菜連絡会」により、令和元年度の愛知県産主要野菜の販売概要がまとめられました。

なお、例年は出荷反省会において意見交換等が行われますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため資料配付のみとなりました。

1 令和元年度の販売概要

京浜・関東市場における販売結果は、J A あいち経済連の取扱実績で、数量 97,609 t（前年比 118%）、金額 228 億円（同 108%）となりました。主要品目の数量は、キャベツ：58,018 t（同 124%）、トマト（ファースト含む）：9,799 t（同 98%）、ミニトマト：6,255 t（同 106%）、ブロッコリー：5,953 t（同 117%）、おおば：1,718 t（同 119%）でした。

2 品目別販売概要

今回、主要品目であるキャベツ、トマト、ミニトマトについて紹介します。

（1）キャベツ

ア 競合産地の動向

他品目（大根、白菜、洋菜）からの転作でキャベツへの移行が増加傾向。

特に、加工・業務用は全国的に産地が増えており、供給がオーバーすることがある。

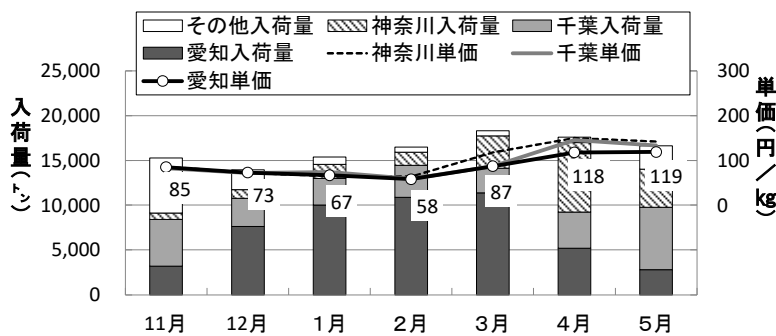


図1 キャベツの産地別入荷量と単価の推移

イ 販売・消費動向

近年では量販店だけでなく、コンビニや小型店舗の他、ドラッグストアやホームセンターなど、多種多様な販売先がある。

これまでの1玉売りから、カット野菜、1/2の半分カット売り、1箱9～10玉の小さめサイズの販売などへ変化しつつある。

ウ 卸売会社から愛知県への提言

- ・玉サイズなど、お客様のニーズに対応していくための行動が必要
- ・加工・業務用向け輸入キャベツへの対策の取組
- ・愛知県産キャベツの顧客確保のための契約取引等

(2) トマト

ア 競合産地の動向

作付面積は各産地横ばいであるが、千葉、栃木については台風被害もあり、シーズン通じて2割近くの減少となった。販売促進については、各産地とも資

材等を充実させて積極的であるものの、新型コロナウイルス感染症の関係で現状も試食宣伝販売の実施は困難だが、ポスターや資材で売り場を作る事は可能。

イ 販売・消費動向

自粛解除以降は、業務系の動きは回復しつつあるが元には戻っておらず、今後も厳しい見込み。

量販店についても本格的なチラシはまだ打っていない。売り場については産地指定にこだわる店が多い。

ウ 卸売会社から愛知県への提言

- ・ユーザーより産地指定される事を目的とし、食味を含めた品質の高位安定
- ・シーズン後半に見られる着色不良果（肩の部分の黄化）の発生抑制

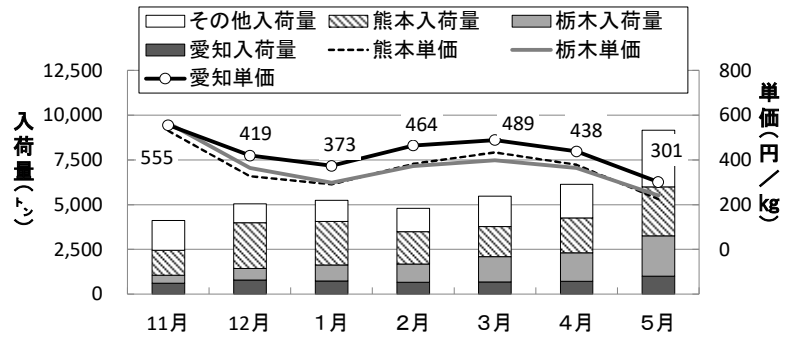


図2 トマト産地別入荷量と単価の推移

(3) ミニトマト

ア 競合産地の動向

熊本県産は増加傾向。茨城県、千葉県、群馬県産は横ばい傾向。静岡県、宮崎県産は微減傾向。

イ 販売・消費動向

量販店はパック主体、バラ主体の店舗とすみ分け

ができているが、販売方法やアイテムも多様化してきており、暖候期には量目を増やして販売する手法が多く見受けられる。業務については、パック、バラともに顧客のニーズにより選択されている。

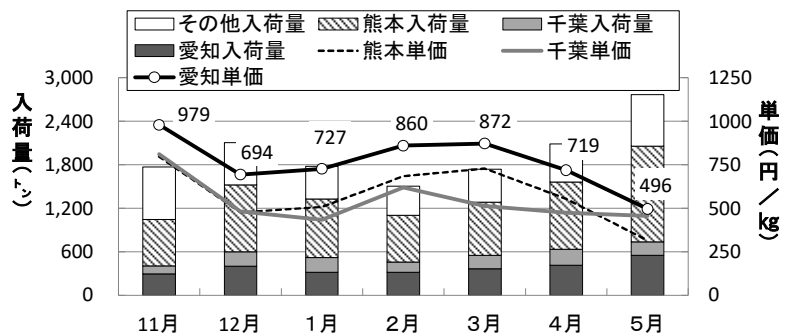


図3 ミニトマトの産地別入荷量と単価の推移

ウ 卸売会社から愛知県への提言

- ・作付面積の維持・拡大による出荷量の確保
- ・パックでの出荷量の維持・拡大
- ・厳寒期における色揃えの徹底による食味の高位平準化
- ・暖候期においては色揃えの徹底による安定した品質の維持

通販サイト「愛知県WEB物産展（あいちの『食と物産』マルシェ）」 がオープンしました！

食育消費流通課

愛知県では、新型コロナウイルス感染症の影響による売上の減少など、経営が悪化している観光関連産業や農林水産業を支援するため、下記のとおり通販サイトを活用した観光物産品や農林水産物等の販売促進に取り組んでいます。

1 開設ページ

「愛知県WEB物産展（あいちの食と物産マルシェ）」
URL：<https://event.rakuten.co.jp/area/aichi/exhibition/>
通販サイト「楽天市場」内に特設ページを開設中。



2 開設日時

2020年7月30日（木）正午
（割引キャンペーン第1弾は2020年
7月31日（金）午前10時より開始）



通販サイトのトップページ

3 サイト運営期間

2020年7月30日（木）から2021年1月まで（6か月間）

4 販売商品

愛知県内で産出された観光物産品、農林水産物（加工品含む）

5 割引キャンペーン

サイト運営期間中に大変お得に買い物ができるキャンペーンを複数回実施します。
キャンペーン期間中は、割引サービスとして購入代金が3割引となるクーポンを発行します。

＜キャンペーン期間＞（第2弾以降は予定）

- ・第1弾 7月31日（金）午前10時～8月17日（月）午前9時59分
- ・第2弾 9月上旬～中旬の2週間
- ・第3弾 10月上旬～中旬の2週間
- ・第4弾 11月上旬～中旬の2週間
- ・第5弾 12月上旬～中旬の2週間
- ・第6弾 1月上旬～中旬の2週間

愛知県産花きの輸出促進の取組について

園芸農産課

農林水産省が策定する「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」において、2019年に花きの輸出額150億円達成を目指して各種取組が進められてきましたが、2019年の日本全体の花き輸出は、約106億円で目標の約70%でした。

愛知県においても、輸出を需要拡大の方策の1つとして捉え、「海外」という出荷先を積極的に開拓しようと、2017年6月に「あいちの花き輸出促進実行委員会」を立ち上げ、関係者と連携して、花き輸出促進に向けた展示商談会へ出展、海外バイヤー向けの産地ツアーを開催してきました。

2020年3月には、県産花きのうち主に切り花の輸出促進につなげることを目的とした「あいちの花き輸出促進計画」を策定しましたので紹介します。

1 愛知県の花き輸出を巡る状況と課題

(1) 愛知県全体の花きの輸出状況

愛知県の2019年の花き輸出額は2,369万円で、切花類が782万円、鉢物類が1,587万円となっており、微増ではありますが輸出額は年々増加しています(表1)。

表1 愛知県の花き輸出額

年		2014	2015	2016	2017	2018	2019
輸出額 (万円)	合計	1,178	1,503	1,590	2,010	2,321	2,369
	切花類	870	774	1,166	1,061	751	782
	鉢物類	308	729	424	949	1,570	1,587

(出典：あいちの花き輸出促進実行委員会)

輸出実績のある品目として、切花類はグロリオサ、スイートピー、(スプレー)バラ、デルフィニウムなど、鉢物類はベゴニア、シンビジウム、ポインセチア、観葉植物、和物などとなっています。

主な輸出先として、切花類はアメリカ、香港など、鉢物類は香港、シンガポールなどとなっています。

(2) 花き輸出を巡る課題

生産者や出荷組織の課題としては、高齢化や組織の弱体化により供給力が不安定になっていること、収穫後の低温保管が不完全であることがあげられます。

また、卸売市場など輸出業者においては、日本産花きの品質の高さと海外バイヤーに高価と認識されている価格に対する理解促進、他の輸出国に比べて高い輸送コストが課題となっています。

2 花き輸出促進に向けた対応策

(1) 輸出にマッチした生産・供給力の強化

海外マーケットへの輸出に適応する生産者、生産者組織の育成・強化、併せて国内流通と輸出の双方に適応する品種選定と品種構成の検討が必要であり、海外バイヤーの反応が良かったグロリオサ、スイートピー、デルフィニウムなど、輸出好適品目・品種の生産増強に取り組むなど産地の対応力強化が求められます。

また、出荷、輸送、販売後の品質安定を図るため、産地、市場等の連携によりワールドチェーンの整備推進が考えられます。



グロリオサ



スイートピー



デルフィニウム

(2) 継続的なプロモーション

海外バイヤーが来場する商談会などでの情報交換や、愛知県産花きの高い品質などの情報を伝えるプロモーション活動は継続して実施することが効果的であり、海外からの継続的なオーダーにつなげるための受発注マッチングなど、産地・生産者と市場等の相互の情報共有が重要な要素となります。

(3) 輸出環境の改善

輸送コストの低減や検疫条件の緩和など、必要に応じて国に対する働きかけを行っていく必要があります。

現在、コロナ禍で花きの輸出については長期的な停滞が見込まれますが、流通網の正常化とともに海外での引き合いが有望と見込まれる品目を中心にして、輸出を促進する取組を円滑に進められるよう支援していきます。

植物園に行ってみよう

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

新型コロナウイルス感染症の影響で在宅の時間が長くなる中、花を部屋に飾る人が増えるなど、花と触れ合う機会は求められているようです。花と触れ合う機会の一つとして、植物園があります。そこで今回は、花や植物に興味を持っていただくきっかけとなるよう、都内にある植物園の一つ、江東区の「夢の島熱帯植物館」について紹介します。

1 大温室では熱帯植物を中心に展示

この植物館は隣接する新江東清掃工場の余熱を利用した施設で、メインとなる約 1,500 m²の大温室には約 900 種類もの熱帯・亜熱帯の植物が展示されています。温室の天井まで届こうかという巨大なヤシ、バナナ・パイナップルといったお馴染みの果物、希少な小笠原諸島の固有種など、目を引く植物がたくさんありました。

花については適期のものをピックアップして紹介しており、「トーチジンジャー」や「ヘリコニア・ロストラータ」といった色鮮やかな花が見ごろを迎えていました。



温室内は熱帯の森のよう

2 企画展もみどころ

楽しんで知識を得ることができる企画展も人気です。筆者が訪れた際には、大きさや形状、伝播方法などが特徴的な種子が紹介されており、マメ科の「モダマ」がつける最長 1.5m にもなる世界最大のサヤや、かぎ爪が動物の毛などに絡みつき広まるゴマ科の「ライオンゴロシ」などが紹介され、家族連れが楽しみながら展示を見ていました。また、ハーブの企画展も開催されており、ハーブを暮らしに取り入れる方法などが紹介されていました。

館内の施設については、新型コロナウイルス感染症対策として映像ホールが閉鎖されるなどしていましたが、まだ知らなかった植物について十分に学ぶことができました。植物園は都内のみならず、愛知県にもあります。こうした施設を活用することで、花や植物に興味を持つ人が増えることが期待されます。



見ごろを迎えた
「トーチジンジャー」



特異的な形状の
「ライオンゴロシ」

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：巨峰）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
元年実績	692	82 (12%)	1,132	1,176	長野(57%) 山梨(30%) 愛知(12%)
2年見通し	620	62	1,000	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年から引き続き、シャインマスカットの割合が増加し、巨峰は減少傾向にある。本年作は平年より4～5日ほど遅く、長梅雨や曇天続きの影響により酸抜けが悪く、着色不足で品質低下が懸念される。玉肥大への影響は少ない。8月5日から露地栽培の巨峰が出てくる。 入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>			<p>ぶどう類全体の作付面積は変わらないが、シャインマスカットは増加し、巨峰は減少している。シャインマスカットがメインになりつつある中、巨峰の入荷量確保を求める声は強く、作付面積の維持をお願いしたい。 本年の出荷物については、天候不順で生産者も苦労されていると思うが、長年の栽培技術をもって品質のよい巨峰づくりをお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
元年実績	929	416 (45%)	956	1,103	和歌山(22%) 福岡(11%) 静岡(9%)
2年見通し	950	—	950	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>本県を中心に和歌山、福岡などから入荷する。本県産は現状、悪天候の影響を受け入荷が数日遅れている。和歌山も長梅雨の影響で、生育不良や病気の発生が懸念される。その他福岡も含め、梅雨明けのタイミングにもよるが入荷のピークは8月の盆明けから月末にかけてで、その後は落ち着いた入荷を見込む。また、今後予想される台風の影響は注視する必要がある。 入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年並の見込み。</p>			<p>本県産は入荷量が多く品質も良いため、量販店からも支持されている。商品特性として過熟や裂果といった傷みがでやすく、品質管理が特に重要であるため、検品をしっかりと行い品質の維持を図るとともに、等階級別選果の徹底に努めてほしい。 いちじくは京浜地区でも夏から秋の果物として定着してきている。生産者の高齢化等により生産規模が縮小傾向であるが、産地の維持・拡大をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し

名古屋中央卸売市場

7月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	31,113	253	263	238	北海道	31%
	28年	31,027	230	239	224	長野	25%
	29年	31,057	229	213	243	群馬	8%
	30年	30,738	265	264	265	兵庫	7%
	元年	33,761	221	218	232	岐阜	5%
	5ヵ年平均	31,539	240	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	31,600	238	—	—		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野を中心に入荷する。長雨や日照不足の影響により果菜類では着果不良等が見られ、入荷減を見込む品目が多い。葉菜類も生育不良で、入荷は今後の天候次第。北海道の入荷は前年を下回るか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
だいこん	27年	1,614	118	103	138	青森	49%
	28年	1,434	114	95	126	北海道	38%
	29年	1,459	87	92	95	岐阜	10%
	30年	1,634	113	131	122	長野	2%
	元年	1,538	97	85	125		
	5ヵ年平均	1,536	106	102	122	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	1,500	110	110	110		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、青森を中心に入荷する。北海道の作付面積は減少傾向で、入荷量は平年を下回る見込み。青森は大幅な入荷増となった前年をかなり下回る見通し。7月の日照不足で小玉中心となるか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
にんじん	27年	1,924	174	192	162	北海道	95%
	28年	1,749	154	178	115	青森	4%
	29年	2,198	71	58	69	愛知	1%
	30年	1,967	139	129	132		
	元年	2,132	99	94	88		
	5ヵ年平均	1,994	125	127	112	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	2,000	130	130	130		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に入荷する。暖冬の影響により兵庫、岐阜が早く切り上がり、青森、北海道に切り替わる。天候不順による小玉化が懸念される。本年は給食需要が見込まれ、例年より高値の見通し。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	125,582	267	268	270	263	北海道 24%
	28年	128,499	235	238	232	234	群馬 15%
	29年	125,300	248	229	254	261	長野 15%
	30年	118,693	290	290	295	287	岩手 7%
	元年	126,330	240	230	246	245	青森 6%
	5ヵ年平均	124,881	256	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	119,000	280	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北、高冷産地からの入荷が中心となる。7月の長雨の影響が残り、関東産地や長野が主となる葉菜類は天候回復しても増量には時間がかかる見通し。一方、北海道からは安定した入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
だいこん	27年	9,412	121	101	133	128	北海道 63%
	28年	8,636	118	90	137	131	青森 31%
	29年	9,414	84	84	88	82	岩手 4%
	30年	8,017	116	125	122	104	群馬 2%
	元年	8,236	95	79	114	95	
	5ヵ年平均	8,743	107	95	119	108	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	8,100	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森からの入荷がほとんどを占める。生育は概ね順調も、6月中旬以降の曇雨天、日照不足や低温による影響で、生育遅れがみられる地域もある。また、一部では2L級の発生率が低くなっている。入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
にんじん	27年	6,635	167	189	158	155	北海道 92%
	28年	6,700	145	169	117	146	青森 5%
	29年	7,607	71	64	70	78	中国 1%
	30年	6,478	137	129	139	142	千葉 1%
	元年	7,215	89	84	82	97	
	5ヵ年平均	6,927	120	125	111	122	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,000	200	250	180	170	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。6月下旬以降の曇雨天、日照不足の影響で、生育は数日程度遅れているが、大きな問題はない。7月の不足感を持ち越すものの、次第に解消する見込み。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

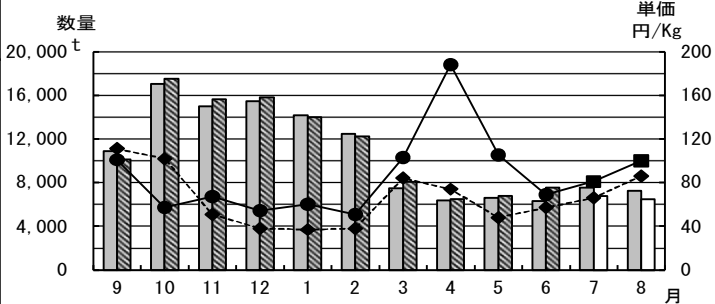
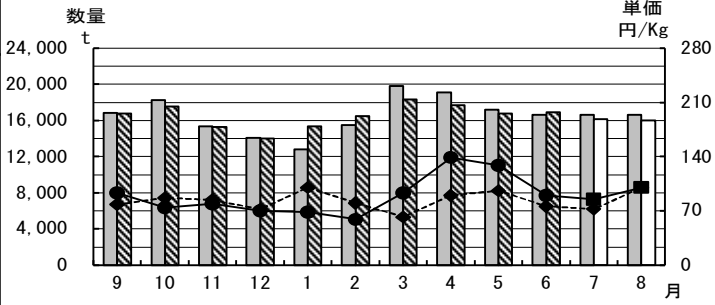
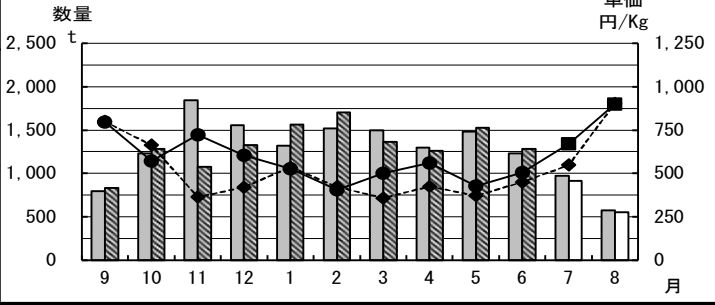
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	27年	1,434	109	104	146	96	長野 99%	
	28年	1,690	56	61	62	58		
	29年	1,636	86	56	82	115		
	30年	1,524	122	158	105	107		
	元年	2,097	89	78	77	110		
	5ヵ年平均	1,676	91	89	92	98	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	1,800	90	80	90	100		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。生育順調であったが、長雨や日照不足の影響により病害の発生や品質低下が懸念される。長野は大幅な入荷増となった前年より、かなり入荷減となる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p>					
	キヤベツ	27年	4,206	103	103	114	102	群馬 64% 長野 25% 北海道 9% 富山 1%
28年		4,438	77	78	81	79		
29年		4,289	89	71	97	100		
30年		4,322	100	114	108	91		
元年		3,846	106	96	121	106		
5ヵ年平均		4,220	95	92	104	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し		4,200	90	90	90	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に長野、北海道などから入荷する。天候不順による生育不良で、品質低下が懸念される。長雨で遅れていた定植作業もあるため、盆までの入荷は少ない見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
ほうれんそう		28年	159	867	760	821	789	岐阜 89% 静岡 3% 長野 2% 愛知 2% 茨城 2%
	29年	178	682	624	690	795		
	30年	137	806	778	869	809		
	元年	134	771	657	867	913		
	5ヵ年平均	149	792	729	811	834	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	140	800	750	800	850		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に、一部長野や茨城などから入荷する。岐阜は7月上旬の豪雨の影響により、盆までの入荷は少ない見込み。全体的に入荷量は伸び悩むと予想される。 入荷量と価格はともに前年をやや上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

7月31日現在

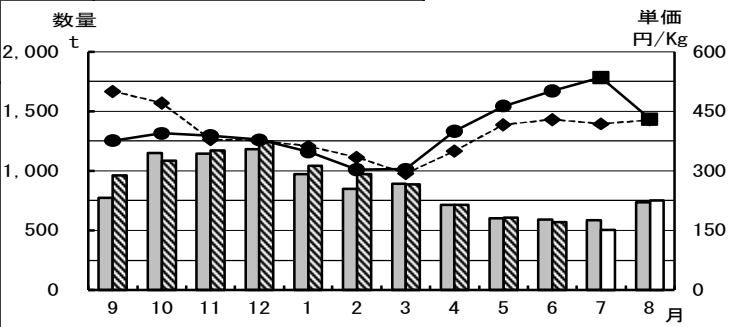
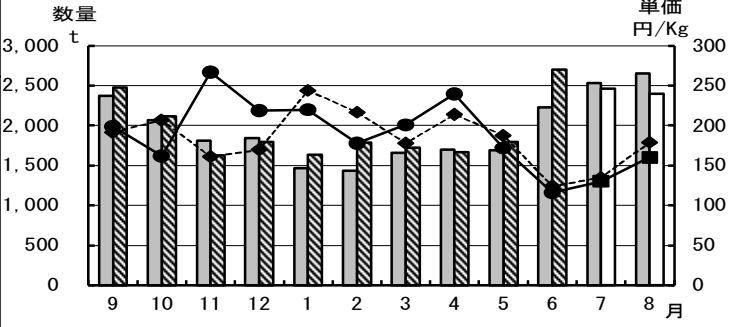
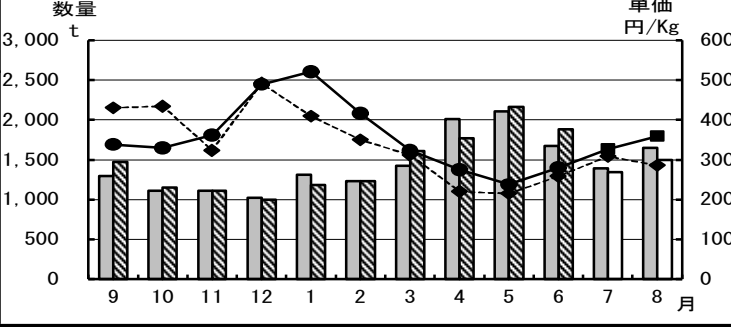
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	27年	6,320	114	102	150	97	長野 96% 群馬 4%	
	28年	6,024	57	55	58	57		
	29年	6,926	87	58	83	114		
	30年	7,209	126	164	111	106		
	元年	7,263	86	74	74	105		
	5ヵ年平均	6,748	95	92	95	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	6,500	100	100	100	100		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からの入荷がほとんどを占める。生育良好であったが、曇雨天、日照不足により生育が悪くなり、小玉傾向になるとともに病害発生も懸念。作業遅れもあり、出回りは少なめとなる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
								
	キヤベツ	27年	15,657	103	94	110	105	群馬 75% 岩手 15% 長野 6% 北海道 2% 青森 1%
28年		16,486	70	66	72	72		
29年		16,393	82	60	90	96		
30年		17,527	100	117	103	83		
元年		16,671	100	86	113	104		
5ヵ年平均		16,547	91	85	98	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し		16,000	100	95	105	100		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に、岩手などからの入荷となる。群馬は春先の干ばつ等による一部の生育遅れは概ね回復するも、長雨で生育不良となり、入荷は少なめか。岩手は、天候次第だが、安定した出荷が続く見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
								
ほうれんそう		27年	695	857	797	951	828	群馬 33% 栃木 30% 茨城 14% 岩手 8% 岐阜 7%
	28年	788	659	583	683	731		
	29年	695	823	834	881	772		
	30年	662	826	799	835	83		
	元年	576	903	735	1,011	1,011		
	5ヵ年平均	683	806	745	863	681	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	550	900	850	900	950		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、栃木など関東高冷地と岩手などからの入荷となる。曇雨天、日照不足の影響から生育は軟弱気味で、病害の発生が懸念される。また、株重が少ないため、今後の天候回復がないと収量低下となるおそれ。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
								

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

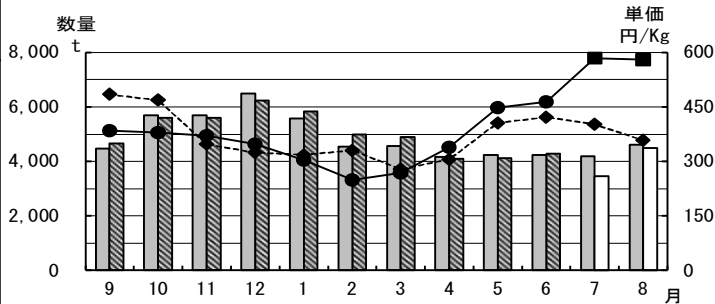
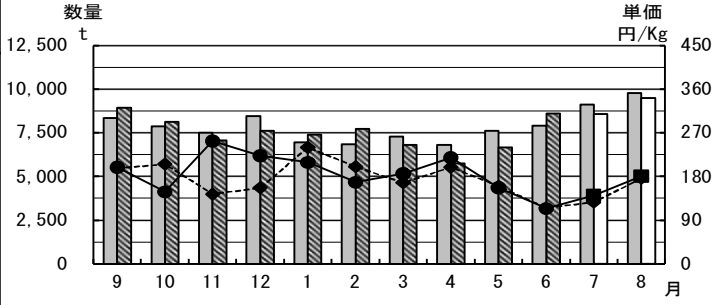
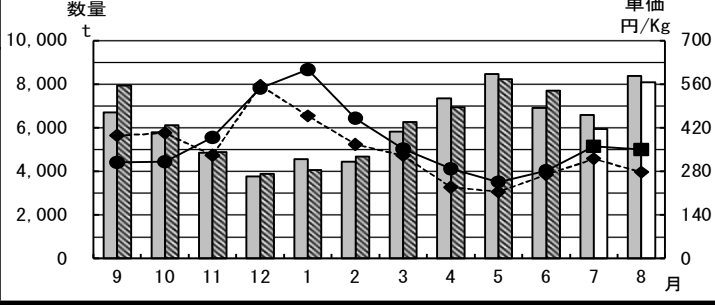
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	747	425	426	467	408	北海道 39%
	28年	732	389	386	401	404	長野 15%
	29年	697	445	401	488	461	茨城 8%
	30年	608	526	509	550	530	愛知 6%
	元年	735	428	399	461	439	中国 6%
	5ヵ年平均	704	440	421	471	445	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	750	430	400	450	450	
ぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道、長野、茨城などから入荷する。長雨の影響で、茨城では収穫作業が遅れ、入荷量は前年をかなり下回る見込み。北海道も大幅な入荷増となった前年をやや下回ると予想されるが、全国的に産地も多く入荷量は前年並か。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>						
レタ	27年	2,483	197	206	218	183	長野 99%
	28年	2,429	154	137	160	181	愛知 1%
	29年	2,686	166	139	151	200	
	30年	2,762	161	170	143	168	
	元年	2,651	179	160	214	173	
	5ヵ年平均	2,602	171	162	177	181	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,400	160	150	160	170	
タス	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。天候不順による定植作業の遅れ、長雨や日照不足による生育遅延により、お盆までの入荷は少ない見込み。病害の発生による品質低下が懸念される。 入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>						
きゅうり	27年	1,429	315	297	310	371	長野 59%
	28年	1,643	239	214	208	300	北海道 18%
	29年	1,479	313	253	305	370	山形 8%
	30年	1,438	403	337	423	449	岩手 4%
	元年	1,648	286	223	285	367	山梨 4%
	5ヵ年平均	1,527	309	262	303	369	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,500	360	250	380	450	
り	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野を中心に北海道などから入荷する。長野は上旬に入荷ピークを迎え、徐々に少なくなる見込み。北海道は生育順調で安定した入荷を見込む。8月中・下旬は給食需要のある地域もあり、高値も予想される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	4,629	392	370	453	367	茨城 34%
	28年	4,184	310	265	356	321	青森 14%
	29年	4,320	413	368	510	404	秋田 12%
	30年	4,241	466	441	547	439	北海道 10%
	元年	4,612	358	323	430	346	千葉 5%
	5ヵ年平均	4,397	388	353	459	375	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,500	580	560	590	590	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、東北、北海道などからの入荷となる。曇雨天、日照不足から生育遅れがみられる産地があり、同時に病害発生が懸念される。天候が回復すれば潤沢な入荷となる見込まれる。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
<p>茨城、東北、北海道などからの入荷となる。曇雨天、日照不足から生育遅れがみられる産地があり、同時に病害発生が懸念される。天候が回復すれば潤沢な入荷となる見込まれる。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
し	27年	9,585	198	206	216	177	長野 84%
	28年	10,216	145	122	144	172	群馬 13%
	29年	10,160	168	130	151	219	岩手 1%
	30年	9,764	153	157	134	164	北海道 1%
	元年	9,759	176	157	214	164	千葉 1%
	5ヵ年平均	9,897	168	154	171	179	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	9,500	180	170	190	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。7月の曇天、日照不足のため、一部で生育遅延がみられ、7月出荷分が8月出荷となる懸念がある。梅雨明け後の急激な天候回復からの品質低下などが心配される。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。7月の曇天、日照不足のため、一部で生育遅延がみられ、7月出荷分が8月出荷となる懸念がある。梅雨明け後の急激な天候回復からの品質低下などが心配される。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>							
きゅうり	27年	8,160	289	267	250	360	福島 41%
	28年	9,054	208	177	191	259	岩手 24%
	29年	7,691	306	242	310	362	秋田 11%
	30年	7,605	374	303	400	413	山形 7%
	元年	8,375	277	209	267	362	青森 4%
	5ヵ年平均	8,177	288	237	280	348	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	8,100	350	340	350	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島、岩手など東北産地からの入荷が中心となる。天候の影響により、一部に草勢低下や病害虫の発生がみられる。天候が回復し気温が上がれば、草勢回復とともに入荷量も増える見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
<p>福島、岩手など東北産地からの入荷が中心となる。天候の影響により、一部に草勢低下や病害虫の発生がみられる。天候が回復し気温が上がれば、草勢回復とともに入荷量も増える見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	1,094	278	333	277	245	愛知 30%
	28年	1,110	216	255	188	203	山梨 26%
	29年	955	285	287	276	292	徳島 16%
	30年	964	306	350	277	296	茨城 10%
	元年	1,017	316	325	316	317	群馬 7%
	5ヵ年平均	1,028	279	309	265	268	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	980	313	310	310	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、山梨、徳島などから入荷する。7月は曇雨天の影響で花つきが悪く、8月上旬は着果不良が懸念される。下旬から少しずつ回復し、概ね平年並の入荷となるか。愛知の入荷量は前年並を見込む。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>					
ト マ ト	27年	1,702	304	273	282	361	岐阜 63%
	28年	1,949	275	301	248	278	北海道 19%
	29年	1,580	351	295	318	433	愛知 11%
	30年	1,501	437	378	422	512	長野 4%
	元年	1,757	263	246	227	329	青森 2%
	5ヵ年平均	1,698	321	297	294	375	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,600	306	300	280	340	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。岐阜は豪雨により一部のほ場で冠水も見られたが、大きな被害はないと予想される。入荷は下旬に向けて減少するか。愛知の入荷量は前年をやや上回る見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	441	571	578	568	595	北海道 75%
	28年	500	607	694	587	541	長野 12%
	29年	576	653	556	608	767	愛知 5%
	30年	498	902	823	851	1,009	岩手 3%
	元年	759	508	557	475	495	青森 2%
	5ヵ年平均	555	637	633	605	668	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	550	600	650	550	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に長野、愛知などから入荷する。各産地ともに7月は出遅れ、8月下旬には順調な入荷となる見通し。本年は8月に学校給食もあり、一定の需要が見込まれる。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	5,126	266	283	245	272	群馬 31%
	28年	4,547	234	256	184	255	栃木 27%
	29年	4,794	298	297	288	307	茨城 25%
	30年	5,024	308	326	273	320	埼玉 4%
	元年	4,964	300	326	275	298	岩手 3%
	5ヵ年平均	4,891	282	298	254	291	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,600	360	380	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、栃木、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。生育は概ね順調も、日照不足により生育遅れや草勢低下がみられる産地もある。順調な出荷を見込むも、天候回復が遅れれば入荷減となるか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ト マ ト	27年	9,009	294	257	257	387	青森 18%
	28年	10,663	262	288	238	256	北海道 18%
	29年	8,286	332	228	304	400	福島 17%
	30年	7,464	440	363	445	508	岩手 11%
	元年	9,433	245	233	221	285	群馬 11%
	5ヵ年平均	8,971	307	272	285	357	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	9,000	340	330	330	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森、福島など東北産地、北海道、群馬からの入荷が中心となる。各産地とも日照不足等で生育遅れ、着色遅延がみられる。梅雨明けにより遅れの回復を見込む一方、天候回復の遅れは出荷量減少につながる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	1,743	599	551	569	673	北海道 32%
	28年	1,914	614	688	600	562	青森 19%
	29年	1,875	682	592	644	793	岩手 11%
	30年	1,633	892	769	854	1,020	福島 10%
	元年	2,503	464	526	414	451	茨城 9%
	5ヵ年平均	1,934	633	616	598	675	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,000	620	640	600	620	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森などの東北各産地からの入荷が中心となる。北海道は生育順調だが、本州の各産地は天候の影響で、生育や着色に遅れ。天候の回復により順調な入荷になると見込まれる。 入荷量は多かった前年を大幅に下回り、価格は安値の前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月16日現在

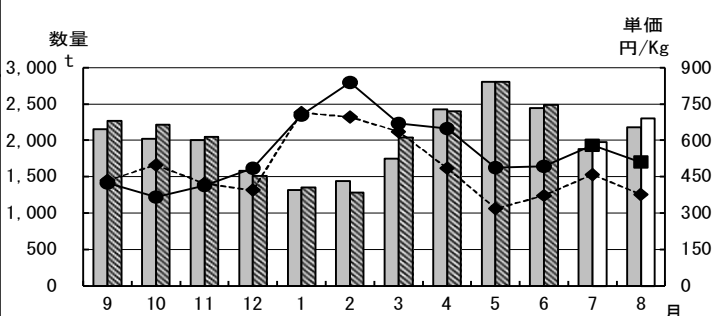
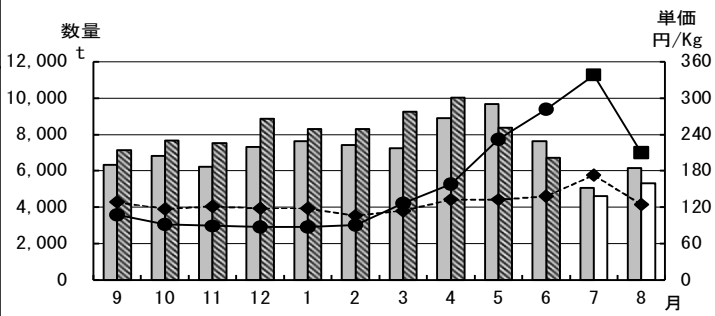
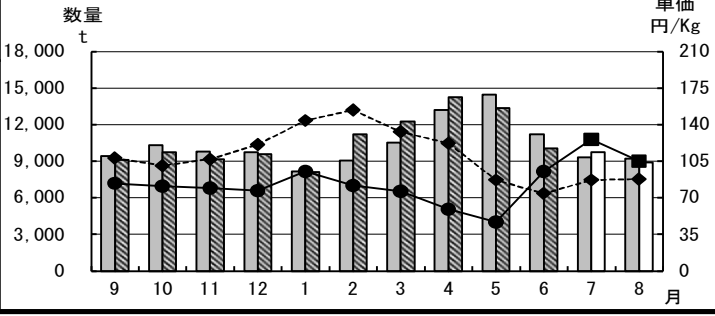
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	482	424	407	460	448	北海道 36%
	28年	442	279	347	306	297	岩手 27%
	29年	392	403	387	427	461	青森 13%
	30年	380	596	564	580	606	宮崎 9%
	元年	484	412	404	406	450	長野 6%
	5ヵ年平均	436	418	418	432	448	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	400	433	450	450	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、岩手を中心に青森などからも入荷する。各産地ともに7月の天候不順により生育遅れが見られる。入荷量も少なく、高値での推移が続く見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	27年	2,438	142	171	152	125	北海道 85%
	28年	2,480	147	164	153	143	静岡 7%
	29年	2,167	117	114	114	123	青森 7%
	30年	2,080	115	103	119	131	愛知 1%
	元年	2,287	127	153	128	110	
	5ヵ年平均	2,291	130	143	134	127	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,000	170	200	160	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に青森、静岡などから入荷する。北海道は小玉傾向だが順調な入荷を見込む。静岡は貯蔵品の入荷で上旬に終了するか。盆前までは高値を見込むが、徐々に値下がりすると予想される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	27年	3,795	139	160	142	124	兵庫 45%
	28年	3,439	176	211	189	155	北海道 44%
	29年	4,084	84	90	87	81	愛媛 4%
	30年	4,651	107	108	111	106	愛知 2%
	元年	5,406	84	91	90	78	滋賀 2%
	5ヵ年平均	4,275	114	126	119	105	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	5,000	103	120	110	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、兵庫を中心に入荷する。兵庫はL玉中心で上旬までの入荷となる見通し。北海道は生育順調で、10日前後から入荷する見込み。高温被害がなければ順調に入荷し、前年をやや上回ると予想される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	27年	1,860	398	371	451	382	岩手 53%	
	28年	2,162	229	288	202	202	茨城 22%	
	29年	1,949	373	335	386	399	福島 14%	
	30年	1,947	545	561	573	517	青森 8%	
	元年	2,180	376	374	347	399	高知 1%	
	5ヵ年平均	2,020	381	384	386	376	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	2,300	510	580	500	450		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>岩手、福島など東北産地と茨城からの入荷が中心となる。岩手は出荷遅れがあるも、天候の回復で増量し、上旬にピークとなるか。他産地も着果数はあるため天候の回復により増量する見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
	白菜	27年	6,961	133	154	133	121	北海道 76%
28年		6,503	147	158	145	143	茨城 7%	
29年		6,290	124	117	125	130	千葉 6%	
30年		5,139	117	91	117	132	青森 5%	
元年		6,104	124	142	123	111	静岡 3%	
5ヵ年平均		6,199	130	135	129	127	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し		5,300	210	280	200	150		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>北海道を中心に茨城、千葉などからの入荷となる。北海道は、日照不足のため地上部が軟弱徒長であるが、順調な入荷を見込む。一方、終盤となる茨城なども小玉傾向で数量は少ない。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>								
たまねぎ		27年	10,359	134	160	134	118	北海道 50%
	28年	9,412	170	191	177	152	兵庫 26%	
	29年	10,166	88	89	91	85	佐賀 17%	
	30年	9,933	112	118	114	106	中国 3%	
	元年	9,221	88	92	88	84	香川 1%	
	5ヵ年平均	9,818	118	130	121	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	8,900	105	120	100	95		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>北海道を中心に、兵庫、佐賀などからの入荷となる。北海道は日照不足も生育は良好で、入荷は順調な見込み。収穫終了している兵庫や佐賀は、品質に注意しながら順調に入荷が進む見通し。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

7月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	8,950	435	444	445	419	長野 25%
	28年	9,757	401	436	381	357	山形 15%
	29年	9,919	393	432	381	358	フィリピン 12%
	30年	9,006	430	443	414	430	愛知 9%
	元年	8,606	434	428	431	453	佐賀 8%
	5ヵ年平均	9,248	418	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	8,200	450	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、なし、ももなどを中心に入荷する。ぶどうは高温の影響で全体的に色つきが悪く、盆明けに入荷増の見込み。なしは長雨の影響で大玉傾向にあり、品質低下が懸念される。ももは病害による不作か。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						
アールスメロン	27年	221	641	—	—	—	愛知 60%
	28年	247	553	—	—	—	静岡 26%
	29年	260	550	—	—	—	茨城 9%
	30年	226	556	—	—	—	高知 3%
	元年	207	605	—	—	—	山形 2%
	5ヵ年平均	232	579	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	200	600	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に静岡、茨城などから入荷する。各産地ともに天候不順による品質低下や小玉化が懸念される。愛知は前進傾向で盆前にピークを迎える見通し。品目転換等により作付面積は全国的に減少している。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。						
すいか	27年	1,901	213	212	234	193	山形 43%
	28年	2,256	183	207	179	121	長野 39%
	29年	2,776	165	205	151	106	青森 8%
	30年	2,135	186	186	191	183	秋田 4%
	元年	2,284	170	163	181	178	愛知 2%
	5ヵ年平均	2,271	182	195	184	153	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	2,200	180	170	180	180		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形、長野を中心に青森などからも入荷する。長雨の影響による糖度不足や腐敗果の発生が懸念されたものの、7月下旬時点の生育は順調で大玉傾向が見られる。愛知は前年並の入荷を見込む。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
果	27年	36,074	423	417	446	411	山形 21%	
	28年	40,346	379	417	371	340	福島 10%	
	29年	39,014	398	434	401	357	山梨 9%	
	30年	35,342	436	427	436	448	長野 9%	
	元年	35,795	432	407	431	470	茨城 7%	
	5ヵ年平均	37,314	412	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し	35,800	430	—	—	—			
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t				単価 円/kg
	なし、もも、ぶどうを中心に入荷する。なしは開花後の低温の影響を受け小玉傾向で、だらだらとした入荷となるか。ぶどうは旧盆に向け入荷増やすが、長雨により裂果の発生が懸念される。ももは肥大良好も、前年並から少ない入荷を見込む。入荷量、価格ともに前年並の見込み。							
アールスメロン	27年	590	659	639	787	591	静岡 35%	
	28年	603	546	600	586	454	茨城 29%	
	29年	649	546	600	661	453	青森 18%	
	30年	635	571	549	708	525	愛知 7%	
	元年	565	643	593	758	635	山形 6%	
	5ヵ年平均	608	591	596	698	529	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し	570	630	620	670	600			
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t				単価 円/kg
	茨城、静岡を中心に入荷する。どちらの産地も天候不順により小玉傾向や下位等級の発生が多くなっており、梅雨明け後の気温上昇による生育改善を期待するも入荷量はやや少ないか。入荷量は少なかった前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。							
すいか	27年	8,465	213	206	238	189	山形 58%	
	28年	9,980	175	205	161	118	長野 13%	
	29年	10,196	166	200	154	110	秋田 12%	
	30年	7,936	190	179	193	223	青森 5%	
	元年	9,732	179	170	185	200	神奈川 4%	
	5ヵ年平均	9,262	183	192	184	164	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し	9,700	190	200	190	180			
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t				単価 円/kg
	山形、長野を中心に入荷。生育は順調で入荷量が多い中、長梅雨で販売苦戦も、梅雨明けによる荷動きの回復が期待される。8月上旬が入荷のピークとなり、その後は落ち着く見込み。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。							

切花・鉢花の8月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 7月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
輪 ぎ	実績	27年	2,200	60		
		28年	2,641	55		
		29年	2,381	58		
30年		2,185	62			
元年		1,885	57			
5ヶ年平均	2,258	58				
2年見通し	1,800	58				
概要	愛知、長野、三重などから入荷する。盆需要に対してハウス栽培物は生育、数量的にも順調。露地栽培物が長梅雨の影響もあり秀品率が低下し、下位等級中心の入荷が見込まれる。					
小 ぎ	実績	27年	1,704	47		
		28年	2,477	36		
		29年	1,931	37		
30年		1,732	44			
元年		1,771	39			
5ヶ年平均	1,923	40				
2年見通し	1,750	40				
概要	愛知、長野、奈良、埼玉、岩手などから入荷する。長梅雨の影響による病虫害の発生や根腐れ等が見られる。盆需要として数量的にはありそうだが、秀品の発生率は低そう。					
カー ネ ー シ ョ ン	実績	27年	1,200	45		
		28年	1,347	44		
		29年	1,281	48		
30年		1,451	49			
元年		1,391	41			
5ヶ年平均	1,334	45				
2年見通し	1,350	45				
概要	長野が中心に、北海道などから入荷する。お盆の入荷は例年並みが予想される。ただし、輸入の入荷は直前まで不安が残る。					
か す み	実績	27年	118	117		
		28年	138	89		
		29年	121	95		
30年		120	105			
元年		109	105			
5ヶ年平均	121	102				
2年見通し	120	105				
概要	長野、福島から入荷する。7月下旬～8月上旬は新植株のピークとなるため、出荷は多い見込み。盆需要は少なく、数量次第では厳しい販売となりそう。					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	27年	237	96	
		28年	455	159	
		29年	428	152	
		30年	355	178	
		元年	366	155	
5ヶ年平均		368	152		
2年見通し		350	155		
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜、北海道から入荷する。天候不順の為、やや遅れている産地もあるが、概ね順調な入荷が見込まれる。鉄砲は兵庫、愛媛から入荷する。生産量が減っていることからそれほど多くはなさそう。LAは新潟、埼玉から前年並みの入荷が見込まれる。</p>				
洋らん	実績	27年	507	82	
		28年	453	86	
		29年	484	78	
		30年	532	82	
		元年	417	89	
5ヶ年平均		479	83		
2年見通し		400	90		
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡などから入荷する。今年の輸入はコロナ禍による航空便の減少の影響でかなり少ない見込みとなる。国内産も長梅雨により品質低下が気になり。</p>				
ばら	実績	27年	580	57	
		28年	695	49	
		29年	566	60	
		30年	557	60	
		元年	486	53	
5ヶ年平均		577	56		
2年見通し		500	50		
概要	<p>山形、長野、愛知、岐阜を中心に入荷する。前半は夏休みや植替えをする生産者もいて、少なめの入荷の見込み。盆明けからは伊勢の出荷が再開することから徐々に増えてくる。コロナ禍によりブライダル需要はかなり少なく、小売店の売りに期待。</p>				
枝も	実績	27年	1,898	66	
		28年	2,028	66	
		29年	1,766	68	
		30年	1,726	65	
		元年	1,505	70	
5ヶ年平均		1,785	67		
2年見通し		1,500	70		
概要	<p>九州、静岡、長野から盆商材が入荷する。前半はホオズキ、パンパスなどの花材が中心に、盆明けからは秋物花材が始まる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	27年	11,729	863	
		28年	12,095	900	
		29年	9,275	948	
		30年	9,758	926	
		元年	10,825	926	
	5か年平均		10,736	910	
	2年見通し		10,800	931	
概要	<p>入荷量は前年並か。作付けサイズも大きな変動なく、6号中心になる。6号以下はMIXでの出荷が主流で、7号以上は色別で赤・ピンク・白系が中心となる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(92.2%)、2位長崎(5.0%)、3位岐阜(1.1%)となっている。</p>				
シャ コ バ サ ボ テ ン	実 績	27年	10,346	336	
		28年	7,405	369	
		29年	8,559	403	
		30年	3,421	411	
		元年	5,058	394	
	5か年平均		6,958	375	
	2年見通し		5,000	390	
概要	<p>入荷量は前年並か。ホームセンターの注文を中心に3.5号、5号の引き合いが強く、6号以上は年々厳しくなっている。また、近年残暑が厳しく盆明けの花き自体の需要が減少している為、注文の減少・競売価格の下落傾向が著しい。注文の数量次第では、競売価格が大幅に上下すると思われる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(53.8%)、2位愛知(45.2%)、3位茨城(0.5%)となっている。</p>				
バラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	27年	6,714	141	
		28年	9,230	95	
		29年	7,147	119	
		30年	5,324	123	
		元年	4,153	110	
	5か年平均		6,514	116	
	2年見通し		4,000	113	
概要	<p>入荷量は継続的な生産調整等で昨年より減少の見込み。昨年同様、周年生産の産地である岐阜と愛媛を中心に3~3.5号が入荷の中心となる見込み。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(24.9%)、2位愛媛(22.2%)、3位愛知(19.2%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシウ	実績	27年	2,858	695	
		28年	3,131	656	
		29年	1,633	776	
		30年	1,331	764	
		元年	1,092	597	
	5か年平均		2,009	695	
	2年見通し		900	570	
概要	<p>入荷量は前年より微減か。高齢化、相場の低下、運賃の高騰などが原因とみられる。前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(64.6%)、2位高知(17.4%)、3位長崎(15.6%)となっている。</p>				
スパタイ	実績	27年	4,715	275	
		28年	835	452	
		29年	1,496	342	
		30年	1,213	378	
		元年	2,420	296	
	5か年平均		2,136	314	
	2年見通し		2,000	280	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。年々生産量が減少しているのが要因で今期も減少の見込み。また、生産サイズも4号以下がメインで、気温に左右されるが年々気温も上昇している為に販売も苦戦が予想され、単価的にも厳しい見込み。前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(57.9%)、2位三重(28.5%)、3位岐阜(13.5%)となっている。</p>				
ドラセイ	実績	27年	24,000	750	
		28年	15,486	783	
		29年	12,613	926	
		30年	14,135	808	
		元年	14,216	687	
	5か年平均		16,090	783	
	2年見通し		13,000	677	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。特に8号以上は減少傾向にある。マッサンゲアーナは小鉢から大鉢まで品薄状態になる。前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(62.1%)、2位鹿児島(10.9%)、3位沖縄(6.0%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.566
令和2年8月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434